

## 8. 本時の目標 (本時 3 / 11)

- ・かけられる数の一の位×かける数が十の位に繰り上がる(2けた)×(1けた)のかけ算で、計算の仕方を前時までの学習を基にして考えることができる。
- ・繰り上がりの意味を半具体物(磁石玉)を使って考えることを通して、筆算の仕組みが分かり、筆算を用いて計算することができる。

## 9. 本時の展開

ねらい	学習活動	留意点 (評価)
<p>前時の復習を通して、かけられる数を十の位と一の位に分けて考えることと、繰り上がりのないかけ算の筆算のやり方を想起することができる。</p> <p>問題の内容を捉え、立式することができる。</p> <p>本時の課題をつかむことができる。</p> <p>23×4 の計算の仕方を、前時までの学習をもとに、考えることができる。</p> <p>4つの考え方を基にして、なぜ繰り上がるのかと筆算の仕組みとが分かる。</p> <p>。</p> <p>本時の学習で分かったことをまとめることができる。</p> <p>。</p> <p>本時の学習の習熟を深めることができる。</p>	<p>前時の復習をする。</p> $\begin{array}{r} 32 \times 3 \\ \times 3 \\ \hline 96 \end{array}$ <p>問題を読み、内容をとらえる。</p> <p>1こ23円のクリップを4こ買いました。全部で何円になるでしょう。立式し発表する。 ・23×4</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>23×4の計算のしかたを考えよう。</p> </div> <p>23×4の計算の仕方を考え、発表する。</p> <p>ア 磁石玉で考える。</p> <p>3×4</p> <p>20×4</p> <p>92</p> <p>イ 23を20+3と見て考える。</p> <p>3×4 = 12    20×4 = 80    12 + 80 = 92</p> <p>23×4 = 92    答え92円</p> <p>ウ 筆算で考える。</p> $\begin{array}{r} 23 \\ \times 4 \\ \hline 12 \\ 80 \\ \hline 92 \end{array}$ <p>まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>23 ・「四三12」で、十の位に1くりあげる。一の位は2。</p> <p>× 4 ・「四二が8」で、1 + 8 = 9。十の位は9</p> <p>92 ・答えは92</p> </div> <p>練習問題をする。</p> <p>29×3    36×2    13×6    14×5</p>	<p>筆算のやり方だけでなく、32を30と2に分けて計算したことを、掲示物を使って確認させる。</p> <p>立式の後、前時の式と似ていることを発表させることにより、23×4も同じ考え方でできるかもしれないという見通しを持たせる。</p> <p>机間指導で、自分の考えが書けていない児童には、教科書の23を20+3とみて考えるやり方を見させ、ノートに写させる。</p> <p>筆算のやり方で書いている児童には、磁石玉を使って、なぜ、十の位に1繰り上がるのかを考えさせる。</p> <p>ア、イ、ウ、ウの順番で発表させる。</p> <p>磁石玉の考え方が出なかった場合は、3つの考え方をさせた後で、全員に考えさせる。</p> <p>これからは、ウのやり方で計算していくことを知らせる。</p> <p>評 自分の考えを前時までの学習を使って書くことができたか。(考)</p> <p>机間指導でウのやり方でつまづいている児童には、ウのやり方で書かせるようにする。</p> <p>評 練習問題がウのやり方で正確にできたか。(表処)</p>

